

2月19日（月）その136 羽生が勝ち、羽生が負けた！

今日はスポーツ新聞から、3つの話題を提供したい。昨日18日（日）のスポーツ新聞は、全紙が羽生選手の金メダルを大々的に報道した。日刊スポーツは7面ぶち抜きの破格の扱い、スポーツ報知も7面、デイリースポーツが6面の扱いだ。県外では一般紙の号外も出て、テレビはニュース時間等を大幅に延長して、日本中が羽生選手の「66年ぶりの連覇」、宇野昌磨選手の銀メダルで「大フィーバー」でした。日刊スポーツによると韓国、中国、ロシア、イギリスなどでも歴史的な快挙を大きく報道したそうです。

安倍総理大臣も直通で本人を称えたそうである。安倍総理は記者団に「ケガを乗り越えて、オリンピック連覇は素晴らしい。本当に感動した。」と語ったそうだ。国民栄誉賞の可能性が浮上してきて、週明けにも本格的な検討が始まるとスポーツ新聞では報じていた。

羽生結弦は、大会前から強気の発言を繰り返していた。「絶対に勝てる自信がある。他の人も金を取るかも知れないが、僕も取ります。」と言っていた。そしてショートプログラムで完璧の演技で111.68でトップに立つと、インタビューで「僕はソチオリンピックチャンピオンで変な言い方だけど、ソチオリンピックのリベンジをしたい」と答えていた。ソチでは金メダルを獲得はしたが、フリーでは何度か転倒し不本意な演技に終わっていたからだ。「フリーのミスが、ここまで4年間強くなった一つの原因だと思っているので、明日リベンジしたい。」と言い切った。私はそれを聞いて、なんてすごいことを言うんだろうと思った。「あの大けがから復帰するだけでも大変なことなのに、SPトップでこんなに強い気持ちを持っていたら、きっと金メダルを取るだろう！」と思った。

同日藤井聡太5段が「朝日杯将棋オープン戦」という、タイトル保持者も全員出場するトーナメント大会で佐藤天彦名人、羽生善治（はぶ・よしはる）竜王を連覇し、決勝では広瀬章人8段に完勝して優勝した。

「5段で、全棋士が参加の大会で優勝すると6段になる」という規定があるようで、5段昇格からまだ15日しか経っていないのに、6段に昇格した。

ご承知の通り羽生善治は、先日国民栄誉賞をもらったばかりの将棋界初の永世7冠で、7冠独占を含めてこれまでタイトルを99期獲得しているレジェンドである。スポーツ新聞やネットニュースでは、「羽生（はにゅう）が勝ち、羽生（はぶ）が負けた！」と報じていた。

羽生善治竜王の奥さんの理恵さんは、熱狂的な羽生結弦ファンであるらしい。ネットニュースによると、ツイッターで「羽生・羽生勝負日」、「悲しい涙とうれしい涙で忙しい」と書きながらも、ご主人のことはちょっとだけで、圧倒的な分量で「羽生結弦賛歌」をしているようだ。

安室奈美恵の最後のツアーが17日から始まった。ナゴヤドームで約4万人の観客。2時間40分の公演で30曲を歌いきったようである。名古屋、福岡、札幌、大阪、東京の5大ドームで17公演をやり、国内ソロアーティストとしては史上最多となる75万人を動員する予定である。そのチケットを求めて510万人の応募があったようだ。また中国、香港、台湾でも公演をやり5万人を動員する予定であるという。

ナゴヤドームでは開演20分前から「ナミエコール」がわき起こり、詰めかけた4万人が安室奈美恵の最後のコンサートに酔いしれたようだ。

2月20日（火）その137 ゆでガエルの話

金曜日に東京に出発して、二人の孫に会って、日曜日に帰ってきた。行く前くらいからちょっと腰痛が発症していたが、「まあ、35年間のお友達だから……」と、たいして気に止めなかった。でも帰ってきて、痛みが強くなり、昨日整形外科に行ってきた。最近腰の調子があまりよくないけど、何の努力もしていなかった。しっかりと専門の先生にレントゲンやMRIなどで見てもらい、「なんとかしなければ！」と思って行動した。

予約なしで行ったので、かなり待たされるだろうなと思い、本を一冊持って行った。待合室でパラパラ再読していると「ゆでガエルの話」が出てきた。みなさんは、「ゆでガエルの話」って聞いたことがありますか？

カエルは普通熱湯にいきなり放り込むと、驚いてジャンプして逃げていくそうです。ところがある種のカエルを常温の中に入れて、徐々に熱していくと、そのカエルは温度の変化に気づかないで、じっとしているそうです。気づいたときにはもう手遅れで、熱湯からジャンプして逃げていく体力はもうなくて、そのまま「ゆでガエル」となって、ご臨終になるというお話です。

この話は実際にそのような実験をした人がいるかどうかは定かではなく、人間の習慣などに警鐘を鳴らすための比喻として、古くから重宝されてきたようです。少しずつ少しずつ変化していくと、気がつかず、いつの間にか取り返しのつかないことになってしまうという意味で使われています。

例えば体重の増加、生活習慣、病気、整理整頓、企業の業績や学校での生徒指導など、いろいろなことに当てはまりますね。毎日体重計に乗っているとわかるのですが、体重は急に2kgも3kgも増えることはありません。もちろん食後は一時的に増えますよ。でも代謝や排泄などで元に戻ります。50gとか100gと徐々に増えていきます。「まあ、これくらいいいさ」と2～3か月放置しておくで、どうなるか。皆さん、よくわかるよねえ。(笑)

私の腰痛も少しずつ悪くなっているのはわかっているのに、最近は何もせず（「毎朝のストレッチ」は、10月でやめてしまった）、まあ大丈夫だろう！と慣れっこになっていた。しかしストレッチをやめてあっという間に半年が経ち、気づいたら体重も増えて、腰も痛くて……「ゆでガエル状態」だ。

学級崩壊や荒れた学校などにも当てはまるだろう。サインが少しずつ出ているのに、担任は気がつかないことがある。そして気づいたときにはもう大変な状態になっているのだ。

私がまだペーパーの担任教師だった30年以上前、別の生徒たちの対応に追われて、ある生徒の変化に全く気づかなかったことがある。彼に「吹奏楽部のまじめな生徒」というレッテルを貼ってしまい、よく見ていなかった。ある時、彼は夜の街をバイクで疾走し転倒して大ケガを負った。よく考えるとサインは出ていたのに、私は彼を救うことができなかった。ときどき彼のことを思い出し、のどに突き刺さったトゲのように、ズキズキ痛む。

「サラリーマン川柳」を2種紹介しよう。「久しぶり！ 聞くに聞けない君の名は？」、「ほらあれよ 連想ゲームに 花が咲く」

私くらいの年になると、ちょっと久しぶりだと人の名前や物の名前が思い出せなかったりすることがよくある。……始まっているかも知れない。「ゆでガエル」とならないように気をつけなくっちゃ!! (笑)

2月22日（木）その138 クスッと笑える「サラ川2018」

前回の「ゆでガエル」の話の最後に、サラリーマン川柳の話を書いた。私は「サラ川」も好きで、新聞にノミネートの10句くらいが紹介されると、ネットで必ず100句全部を読む。「その105」で昨年度の100句の中から私の琴線に触れた5句を紹介した。再掲すると「ゆとりでしょ？そう言うあなたはバブルでしょ？」、「久しぶり！聞くに聞けない君の名は」、「新人はペンを取らずに写メを撮る」、「守ろうと誓った嫁から身を守る」、「少子化でサンタが子どもを上まわる」（以上「サラ川2017」より）

「サラリーマン川柳」は、第一生命の社内広報誌で募集されていたが、昭和の終わり頃から一般からの公募が始まり、以下毎年実施されていて「今年の漢字」や「流行語大賞」などと同じように日本の風物詩となっている。内容は、サラリーマンだけに、好不景気や流行語、その年の流行、世相を反映したものなどでサラリーマンの悲哀をユーモラスに詠んだものが多い。家庭での悲喜こもごも（とりわけ実権を握る妻を詠んだ句が多い）と、できない上司のむちゃぶりや「超人類」の後輩を嘆く句などは30年前も今も変わらない。

4～5万件の応募作品の中から、まず第一生命が100句を選定し2月頃ネット等で発表する。その後一般投票により「ベスト10の句」を選び、毎年5月頃発表される仕組みになっている。

実は2月15日に第一生命選定の100句が発表された。47,559句の応募があったらしい。ネットで100句全部読んでみた。時間のゆとりのある人は、「サラ川2018」で検索してみよう！報告書のまとめやプレゼン作成でそんな時間はない？（笑）ならば私がクスッと笑えたものを20句紹介しよう。

心を楽にして聞いて、「いいネ！」と思えば、笑いましょう！

- 正直で 忖度なしの 体重計
- スポーツジム 車で行って チャリをこぐ
- ドクターが ダメというもの みんな好き
- 一日の 嫁との会話は 9秒台
- 俺ん家も 長期政権 嫁一強
- 禁煙し それでも家で 煙たがれ
- 何事も 妻ファーストで うまくいく
- ラインから 絵文字が消えた 夫婦仲
- テレワーク 在宅勤務は 妻がノー
- ノーメイク 会社入れぬ 顔認証
- 上司にも部下にも言えぬ「ちがうだろ！」
- IoT 何の表情 このマーク
- 保存先 いつもどこかに かくれんぼ
- 今時は シャープと言わず ハッシュタグ
- 減る記憶 それでも増える パスワード
- 電子化に ついていけずに 紙対応
- 父からは ライン見たかと 電話来る
- ほらあれよ 連想ゲームに 花が咲く
- 減量の 決意はいつも 満腹時
- 汗だくは イケメンだけに 許される （以上第一生命の HP より抜粋）